

ペピータくらぶ×成蹊大学  
ダンス・パフォーマンスプロジェクト「マノ・マノ・ムーチョ！」からのお便り

第1号

# マノマノ通信

2022年3月発行

ペピータくらぶ ご家族のみなさま

はじめまして、本活動の講師をしております、おおにしけんたろう大西 健太郎です。この活動について知っていると言う方は、まだほとんどいないと思います。昨年の秋頃から少しずつ準備をしてきて、年始にはプレ開催を行う予定でしたが、コロナの状況とぶつかるなどあり、ようやく念願のスタートをきることができました。

「障がいのある人やそのご家族にとって、豊かな生活環境を育んでいく一助になればと思う…」

ペピータの酒井さんと初めてお話しした時、心に残った言葉です。ペピータの理念にもつながる言葉でもあり、きっと今回のプロジェクトもこの言葉の延長線上につながってくるのだと感じたからです。次いで、こんなお話しをしました。

「社会とのつながりや他者との接点を作ること、また選択ができること…」

これは、「障がいの有無」に限らない問題だと感じました。

ある時、成蹊大の学生たちとこの問いについて話しました。驚くことに、学生の多くがこれまで「障がい」に関わる当事者と出会う機会が極めて少ない、もしくは大人や先生に説明してもらえなかったという声があがりました。

もし、このプロジェクトがペピータや学生たちの力になればとしたら、それは参加者それぞれにとって「知らなかったこと・人」にもう一步近づいて見てみようとする気持ちの後押しになればいいなと思います。

障がいの有無、住まう環境、受けてきた教育や宗教、そして生まれた場所や国…お互いの想像範囲に入りきらない「他者」と出会うことは、決して容易ではありません。その分、お互いをもっと知りたいと思ったり、一緒に過ごす時間が何倍にも充実して感じるなど、出会うことによって得るものもまた計り知れません。

もし、現場でのコミュニケーションや関わり方などで困った時や分からなくなった時など、そばで手を差し伸べていただけると助かります。たくさんの人たちの手を伝えて活動を育んでいけたらと思います。これから、どうぞよろしくお願ひします。

2022年3月 大西 健太郎

「マノ・マノ・ムーチョ」とは？（どんな活動するの？）

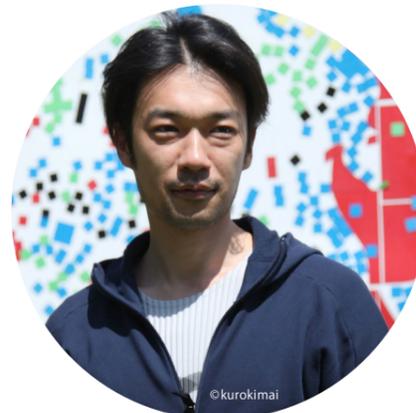
2人1組になって、お互いに言葉を使わずに、「手」の動きや表情をたよりに、相手に反応したりアクションを持ちかけてみるなど、かけ合いの中で生み出すダンスです。

初めに振り付けや動きのフォーム（型）があるのではなく、他者とのコミュニケーションを土台にしながら、思わず「これって踊りじゃない？」と沸き起こるやり取りを楽しみます。

普段の言葉を使ったコミュニケーションではない、「手」が発する「何か」をかけ合うからこそ生まれる「ダンスの種（＝ペピータ）」を発見します。

活動の名前は、「マノ・マノ・ムーチョ！」。「マノ」は、“手”という意味です。「ムーチョ」は、“いっぱい”とか“たくさん”を表します。「ペピータ（＝果実の種）」という名前とは、どちらもスペイン語というところで通じています。

## ◎ 講師プロフィール



大西 健太郎

ダンサー、パフォーマンスアーティスト。1985年生まれ。東京藝術大学大学院先端芸術表現科修了。2011年よりこども創作教室「ぐるぐるミックス」を主宰する。2016年より板橋区立小茂根福祉園にて参加型パフォーマンス『お』ダンスプロジェクトなど、他者との協働によって生み出す作品制作に取り組む。

## 活動スケジュール

◎日程：※水曜日開催。全6回。

3 / 9

3 / 23

4 / 13

4 / 27

5 / 11

5 / 25

◎時間：16:00~17:00

(※途中参加 OK、見学も歓迎です。)

## 場所

ペピータスタジオ

武蔵野市 緑町 1-3-15 京王むさしのビル 2F  
(※「スギ薬局」の上)

# メンバー紹介

## 手・マロ・マロ ムーキーヨ

わたしたち成蹊大学の2年生  
5人が参加します！

手を使ったダンス・パフォーマンスの  
プロジェクトをします。わたしたちと手を使った  
ダンス・パフォーマンスをしませんか？  
みなさんと会えることを  
楽しみにしています！

おちあい  
みゆ



好きな  
食べもの

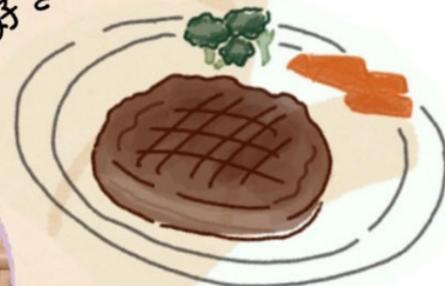


たこやき

ゆたなべ  
ななみ



好きな  
食べもの



ハンバーグ

たかの  
だいき

好きな  
食べもの



おやこどん



すけやしき  
えさと



なす

好きな  
食べもの

あさくら  
りこ



好きな  
食べもの



だしまきたまご